

ど の し た 淵

【野天パーティー開催】

有るものに磨きをかけ、地域の魅力発信と関係人口創出につなげるため、山野草の天ぷらパーティーを自宅前広場で開催しました。参加者全員で山野草を採取し、自分たちで天ぷらにして食べる。参加者体験型イベントです。日頃は目にもとめない草や葉っぱが立派な食材に早がわり。とってもおいしく頂きました。からのえんどう・新茶・柿の新芽・タラの芽・うど・はこべ・わらび・ゆきのした・よもぎ・みつばのびる・きらん草 はらいつべなりました。里山は贅沢な食材の宝庫です。秋に第2弾やろっかな!?



新年度のテーマは

『気づき・動き・紡ぐ』です。

発行責任者

高峰公民会長

三 腰 善 行

090-1089-9432

令和5年5月1日発行

【ボランティア活動 第1弾】

4月23日（日）ゴールデンウィークを前にドライバーが気持ちよく往来できるように、高規格道路の泊野インター周辺の除草作業を行いました。18人の御協力によりスッキリと綺麗になりました。女性の参加や当日は都合が悪いからと、前日に作業していただくなど皆様の御協力に感謝いたします。

第2弾は夏休み前の7月16日に公民館並びにどのした淵周辺の除草・清掃作業を行います。住民全員・あなたが出来る事で地域の環境整備に努めましょう。多くの皆様の参加をお待ちしております。



だかね寺小屋 【西郷隆盛の人生訓】

小説家 童門冬二が著した「西郷隆盛の人生訓」の中から、印象に残った文面を抜粋紹介します。

◆己に克つとは、日々、小さなことの積み重ねだ

「己に克つといっても、高い目標を掲げて、いきなりそこに走り出すことではない。日常生活の中で、あるいは職場の中で、目の前に起っている身近なことを、一つ一つ、的確に処理していくことの積み重ねによって行われる。ちょうど気象条件に対して、人間がその変化に適宜対応していくのと同じである。

◆天を敬い、人を愛せ

「よく『道』を行うというが、この『道』を行うことの究極の目的は、天を敬うことだ。天は公平で、自分も他人も同じように愛している。自分を愛する気持ちで、他人も愛しているのだ。そのことをよくわきまえるべきだろう。」

※西郷の、語録の中でいちばん有名なものだ。この考え方は、彼が冷や飯を食って、島に流され、呻吟していたころに発見したものだ。孤島で夜々、おびたらしい星を仰ぎながら、彼はこんな考えに到達したのかもしれない。

◆人間が相手ではない、天が相手なのだ

「ものごとに当たっては、人間を相手にしているのではない。天を相手にしているのだと思え。そうすれば、自分の考えで、やたら人を咎めるような癖が消えるだろう。そして、自分のほうがまだまだいたらないのだ、という謙虚な気持ちになるはずだ」

【言魂手箱完成】

令和4年度区活性化委員会文化民生部会で編集したふるさとと言魂集「言魂手箱」が完成し、区内全戸に配布しました。

冊子の中で紹介していますが、この冊子のベースになったのは、ふるさとを遠く離れて暮らし、懐かしみ・思いを馳せておられる出郷者の皆さんの取り組みがあります。

地球上のどこに居ようとも、ふるさととは一つです。永く帰っていない方、もう実家が生誕の地にはない方もいらっしゃるかもしれませんが、故郷をなつかしむ想いは誰しもあるものです。

1冊500円で販売してまゝす



【泊野たけのこ掘り体験】

さつま町の春の風物詩として定着している、泊野観光たけのこ園もコロナ禍で3年中止されていました。活性化委員会では産業経済部を中心に、林産女性グループの皆さんのご意見や、たけのこの生育状況を勘案し、料理の提供は行わず『たけのこ掘り体験』として4月中の受け入れを、山主がお客様からの申し込みに対応して実施しました。今年は町内全域的には裏年とのことでしたが、4月になればそれなりに生えてくるだろうと思っていたところ、例年稀に見る凶作でマクおえてきませんでした。自分の竹山に限っては4月2日に3組12人を受け入れるにとどまりました。皆さんのたけのこの出はどうでしたか!! 来以降も料理の提供は厳しい状況が続くと思われます。打開策を練らなければ。



ふるさと回顧録

『泊野に生きて』 大阪府八尾市 久木野正志
第1章 春(3月〜5月) NO1

◆かくれんぼ・・・レンゲの田んぼで寝転んでかくれんぼ。小さな体はレンゲで見えなかった。
◆タケノコ掘り・・・モソダケが3月後半、コサンダケ4月後半。チュトカッがモウソウダケに多かった。皮むきも大変で、コサンは先っぽに切り口を入れて、一気に根元まで皮を裂いた。煮物も酢味噌木の芽和え等、春には欠かせない自然の恵みの一つ。美味しかった。

◆ワラビ採り・・・独特の苦みで子供のころはあまり食べなかった。ノビル、フチ(よもぎ)の餅もこの頃。

◆山桜・・・台所の窓越しに宮田と市野の山が見える。白くポツン、ポツンと咲く。山の緑に山桜が自己主張して春の始まりを実感した。

◆ハナン(花見)・・・4月の初め各部落の公民館に集まり総出の宴会。焼酎、シメモンは当たり前。テコ・シャンセンで踊りも出る春の宴。

◆ちまき(灰汁巻き)・・・端午の節句の食べ物。竹の皮は毎年各家で拾って準備。前の晩に母がもち米をしたし、翌朝母が巻いてかまどに大きな鍋。家族で火の当番。途中で巻きを裏返したり、位置を変えたりもした。食べる時、母は巻いた紐の端を咥え、もつ片方をつかみ回しながら食べる大きさに切ってくれた。きな粉に砂糖(黒砂糖もあった)、塩を少し混ぜる。私は醤油派だった。現在は家で作ることは少ない。寂しい。

次号は 春NO2〜夏です。乞うご期待!!